

# 自己評価結果報告 概要

2022年度

評価判定は、保護者アンケートを受けて職員それぞれが4段階（A 十分達成されている・B 達成されている・C 取り組まれているが成果が十分でない・D 取り組みが不十分である）に振り分け自己評価しI項目ずつ全体を平均したものを表記しています。

## I 「保育の計画性」についての評価結果及び改善策

評価A 達成率92%

- 1 園の教育理念・教育目標の理解
- 2 幼稚園教育要領の理解
- 3 教育課程の編成
- 4 指導計画の作成
- 5 環境構成
- 6 評価・反省

という6つの観点から達成度を振り返りました。

- ・日々の保育の評価・反省をその日のうちに行うことに関しては、まとめて行う事が多くあった。気になる子どもへの記録に関しては、時系列を追って記録することが出来ている。
- ・複数担任制を導入することで一人では保育の視点も偏るが、二人担任で保育計画を立てることで反省や気づきを見つけ出すことが出来た。
- ・例年行われていた行事に関しては、見直しを行う場面も出てきた。例年計画していた行事が今の子どもの育ちに合わせた保育計画に無理が出てき始めていること等、計画変更の話し合いが多く持たれたことは大切な取り組みと思う。しかし、保育計画を保護者に伝え、理解していただくことの難しさもこれからの課題となる。
- ・複数担任制になりそれぞれの保育感の違い等から子どもへの関わり方が統一されなかったことが今後の課題となる。

### 《 改善策として 》

- ・日々の保育計画は、週ごとに各学年で話し合い記録として残す。
- ・月案、週案の変更などは、教師会を通じてそれぞれ確認していくことを積極的に行う。

## II 「保育者の在り方、幼児への対応」についての評価結果及び改善策

評価A 達成率94%

- 1 健康と安全への配慮
- 2 幼児理解
- 3 指導と関わり
- 4 保育者同士の協力・連携

という4つの観点から達成度を振り返りました。

- ・朝の視診で健康状態を見極めることが難しい保育者もいたが、心配な場面では、報告・相談することで子ども達の状態を把握することが出来た。
- ・心の健康面では、登園を渋る子どもや個別対応が必要な子どもには保育者が多いことでその子どもに合った対応が取れたことは良かったと思う。
- ・保育のあり方について保育者が増えたことで話し合いの機会が増え違う視点から物事を捉えることが出来たことは良かったように思う。

### 《 改善策として 》

- ・子ども理解を深められるよう教師会の時間を意識して作るようにする。
- ・子ども理解を得るためには、個人記録を意識する。

## Ⅲ「保育者としての資質と能力」についての評価結果及び改善策

**評価A**達成率 94%

- 1 専門家としての能力・姿勢・義務
- 2 組織の一員としての在り方

という2つの観点から達成度を振り返りました。

- ・昨年は、提出物などの期日を守ることがおろそかになりがちだったが、計画を立て準備することで改善されてきている。
- ・整理整頓や後片付けに関しては、忙しさで後回しにすることで忘れてしまうことがあった。
- ・保育者間の信頼関係が強く、様々な情報共有や連絡・報告・相談などチームとして動くことが出来た。

### 《 改善策として 》

- ・後片付けや整理整頓は、その都度行うよう意識する。改善が見られない場合は部屋の環境 day を設け各クラス同時に行うようにする。

## Ⅳ「保護者への対応」についての評価結果及び改善策

**評価A**達成率 97%

- 1 情報発信と受信
- 2 守秘義務の遵守
- 3 対応上のマナー・心がまえ
- 4 クレームへの対処の仕方

という4つの観点から達成度を振り返りました。

- ・保護者との信頼関係を大切にするために降園時にお子さまの様子を伝える。コロナにより保護者が幼稚園に来る機会が減ったことで SNS 等を用いて行事を配信する、クラス通信をこまめに配布するよう努力した。
- ・苦情などが来た場合には、職員会議を開き出来るだけ寄り添った対応が出来るよう心がけ記録を残し同じことを繰り返さないよう努力した。

## 《 改善策として 》

- ・保護者との信頼関係を築くことに関しては、見えないところにいる子どもを思う保護者の気持ちを大切にこれからも真摯に向き合っていく。
- ・信頼を得られないご家庭とは、ご理解・ご納得いただけるよう対面での話し合いを大切にする。

## V「地域の自然や社会とのかかわり」についての評価結果及び改善策 評価A達成率91%

- 1 地域の自然・人々とのかかわり
- 2 小学校との連携
- 3 子育て支援と地域への開放

という3つの観点から達成度を振り返りました。

- ・コロナ禍にありながら例年中止になっていたバス遠足が開催できたことは嬉しかった。動物園に行けない年が続いていた為、移動動物園を招いたことも子ども達にとっても良かったように思う。自然の中で人間と共存している動物を知る良い経験となった。また、子ども達がとても優しく接したことで山羊がお別れるすることをとても悲しみ泣くという場面もあり子どもの心に響いた場面でした。また、園単位で行事を組んでいたが、クラス別に移動することで興味の違う物への観察を充分に行うことが出来た。
- ・夏の水遊びでは、園庭内に川を作り水の流れを楽しむような取り組みをしたことで異年齢との交わりの中、模倣しながら一緒に遊ぶ姿が見られた。
- ・コロナ禍にあった為、小学校との連携は思うようにできなかったが、保護者からの学校での様子を聞くことで学年単位での把握が出来た。また、ボランティア活動の一環で中学校との交流が少しできたことは良かったように思う。

## 《 改善策として 》

- ・体力差が同学年の中でも見られた為、各学年別に散歩など課外活動を積極的に行うよう計画を立てる。
- ・自然体験が乏しくなっているが、様々な場面で水や土、草や花、生き物等、生きとし生けるものを知るきっかけづくりを積極的に取り入れる計画を立てる。

## VI「研修と研究」についての評価結果及び改善策

評価A達成率91%

- 1 研修・研究への意欲・態度
- 2 保育者としての専門性に関する研修・研究
- 3 今日的課題に関する研修・研究
- 4 園内の環境・遊具・教材に関する研修・研究

という4つの観点から達成度を振り返りました。

- ・オンラインでの研修が多かったが、認定こども園では保育者が参加しやすい環境だった為様々な研修を受けることが出来た。
- ・オンライン研修を通じて保育者間での考え等、議論できることが多かったのは良かった。

- ・様々な研修を受けたことで自分の学びたい事が明確になり、積極的に取り組む姿勢が見られてきた。

### 《 改善策として 》

- ・苦手な事や興味のあることを文字化し自己課題の達成度を記録できるようにする。

## 結果報告を受け学校評価委員の皆様からのご意見を頂きました

- ・毎回送られてくるクラス通信は、事細かに伝えられていて先生のご苦勞が良く伝わります。
- ・保護者の方々の苦言は、伝えてもらえる大切さがある。逆に言えない方々の思いを想像することが大切です。その為に話をする、また伝えるというコミュニケーションを大事にし、心を通じ合わせることを心がけ保護者の方々との信頼関係を築いてください。
- ・核家族が増え保護者も手探り状態での子育てをしている。幼稚園として出来ることは様々な情報発信をし安心して子育てが出来る環境づくりをしてほしい。
- ・チーム保育の大切さ、一人一人の保育者が孤立しないでチームとして行動していることが理解できた。また、年齢差が大きい中で保育者みんなが一つになって保育をしていることがわかり素晴らしいと思う。
- ・幼小連携では、久しぶりに入学前の就学体験を行うことが出来た。小学校にとっては新しい小さな人たちが来ることで意識の芽生えもある。続けていきたいと思う。
- ・年上の子どもを尊敬し、あこがれを抱いて模倣する姿は縦のつながりが良く出来ていると思います。
- ・オンライン研修を上手に使っていると思いました。

沢山のご意見を頂き、職員一同真摯に受け止め保育に活かせますよう努力いたします。アンケートにご協力いただきました保護者の皆様、学校評価を行っていただきました皆様、誠にありがとうございました。